

- 二 被保険者、加害者及び被害者の氏名、年齢、住所その他の被保険者、加害者及び被害者に関する重要事項
- 三 令第二条第一項に掲げる損害ごとの支払金額
- 四 事故により支出を要した費用、事故により失われた利益、慰謝料その他の損害の細目及び当該細目ごとの積算の詳細
- 五 後遺障害に該当する場合にあつては、該当する等級及び当該等級に該当すると判断をした理由の詳細
- 六 保険金等の支払において損害額から減額を行った場合にあつては、減額の割合及び当該判断をした理由の詳細
- 七 被保険者に損害賠償の責任がないと判断した場合にあつては、当該判断をした理由の詳細
- 八 事故により損害が発生していないと判断した場合にあつては、当該判断をした理由の詳細
- 九 法第十四条の規定に基づき、保険会社が損害のてん補の責を免れると判断した場合にあつては、当該判断をした理由の詳細

(緊急自動車)

第四条 令第九条第十五号の国土交通省令で定める自動車は、道路運送車両の保安基準（昭和二十六年運輸省令第六十七号）第四十九条第一項に規定する警光灯及びサイレンを備えた警察自動車とする。

(令第九条第十六号の国土交通省令で定める車両番号標)

第四条の二 令第九条第十六号の国土交通省令で定める車両番号標は、道路運送車両法施行規則第六十三条の二第三項ただし書の規定により車両番号標として貸与を受ける臨時運転番号標とする。

(特種用途自動車)

第五条 令第九条第十七号の国土交通省令で定める自動車は、次のとおりとする。

- 一 医療防疫用自動車
- 二 工作自動車
- 三 架線修理自動車
- 四 起重機自動車
- 五 移動郵便自動車
- 六 ふん尿自動車
- 七 寝台自動車
- 八 コンクリート・ミキサー自動車
- 九 無線自動車
- 十 図書館自動車
- 十一 ちゅう房自動車
- 十二 教習用自動車（道路交通法（昭和三十五年法律第五号）第九十八条第一項の指定自動車教習所がもつばら自動車の運転に関する技能の教習の用に供する自動車をいう。）
- 十三 その他構造、装置及び用途が前各号に掲げる自動車に類する自動車

(責任保険の契約の解除の要件)

第五条の二 保険契約者は、次の場合には、責任保険の契約を解除することができる。

- 一 登録自動車について、道路運送車両法第十五条第一項の規定により永久抹消登録を受け、若しくは同条第五項の規定により永久抹消登録のあつた旨の通知を受けた場合（同条第一項第二号に掲げる事由に該当する場合に限る）、同法第十五条の二第二項の規定により輸出抹消登録を受けた場合又は同法第十六条第一項の申請に基づく一時抹消登録を受けた場合
- 二 軽自動車又は二輪の小型自動車について、使用を廃止し、車両番号標を運輸監視部長、運輸支局長又は軽自動車検査協会に提出した場合
- 三 小型特殊自動車又は原動機付自転車について、使用を廃止した場合（特別区又は市町村の条例で小型特殊自動車又は原動機付自転車に当該特別区又は市町村の交付する標識を付すべき旨を定めている場合は、当該標識を特別区又は市町村の長に提出した場合に限る。）
- 四 登録証書（道路交通に関する条約の実施に伴う道路運送車両法の特例等に関する法律（昭和三十九年法律第九号。以下「特例法」という。）第五条第一項の登録証書をいう。以下同じ。）の交付を受けた自動車について、特例法第二条第二項の締約国において使用するため関税法（昭和二十九年法律第六十一号）第六十七条の輸出の許可を受けた場合
- 五 締約国登録自動車について、関税法第六十七条の輸出の許可を受けた場合
- 六 道路運送車両法第三十四条第一項（同法第七十三条第二項において準用する場合を含む。）の臨時運行の許可を受けて運行の用に供する自動車について、臨時運行許可番号標を当該行政庁に返納した場合
- 六の二 道路運送車両法第三十六条の二第一項（同法第七十三条第二項において準用する場合を含む。）の許可を受けて運行の用に供する自動車について、回送運行許可番号標を運輸監視部長又は運輸支局長に返納した場合
- 七 道路運送車両法施行規則第六十三条の二第三項ただし書の規定により臨時運転番号標の貸与を受けて運行の用に供する検査対象外軽自動車について、臨時運転番号標を運輸監視部長又は運輸支局長に返還した場合

(立入検査)

第六条 法第二十三条の二第二項（法第二十三条の三第一項において準用する場合を含む。）の証明書は、第二号様式による。

(令第十一号第四号の国土交通省令で定める期間)

第七号 令第十一号第四号の国土交通省令で定める期間は、次のとおりとする。

一 道路運送車両法第五十八号第一項の自動車(第三号の自動車を除く。)については、同法の規定による自動車検査証の有効期間に一月(離島(橋又はトンネルによる本土(本州、北海道、四国、九州及び沖縄島をいう。))との間の交通又は移動が不可能な島をいう。)に使用の本拠の位置を有する自動車のうち、道路運送車両法施行規則第四十四条第一項ただし書の規定により継続検査を受けるものにあつては、二月)を加えた期間

二 令第九号第十四号の二の小型特殊自動車、検査対象外軽自動車又は原動機付自転車については、締結しようとする責任保険の契約又は責任共済の契約の保険期間又は共済期間に一月を加えた期間

三 令第九号第十六号の商品自動車については、五年

(責任保険に関する規定の準用)

第八条 第一条の五から第三条の二まで及び第五条の二の規定は、責任共済について準用する。

第九条から第二十六条まで 削除

(政府に対する損害の填補の請求)

第二十七条 法第七十二条第一項第一号又は第二号の損害の填補の請求は、次の事項を記載した書面をもつて行わなければならない。

- 一 請求する者の氏名及び住所
- 二 死亡した者についての請求にあつては、請求する者の死亡した者との続柄
- 三 被害者の氏名及び住所並びに加害行為の行われた日時及び場所
- 四 法第七十二条第一項第二号の規定により請求する場合にあつては、加害者の氏名及び住所
- 五 法第七十二条第一項第一号又は第二号の規定により政府に対し損害の填補を請求することができる理由
- 六 当該自動車の自動車登録番号若しくは車両番号、標識の番号又は道路交通に関する条約の規定による登録番号(これらが存しない場合にあつては、車台番号)が明らかである場合にあつては、その番号
- 七 他の法令に基いて法第七十二条第一項第一号又は第二号の規定による損害の填補に相当する給付を受けるべき場合にあつては、その給付の根拠及びその金額
- 八 請求する金額及びその算出基礎(診療報酬の請求に係る明細その他損害額の内容及び根拠を明示すること。)

2 前項の書面には、次の書類を添付しなければならない。

一 診断書又は検案書

二 前項第二号から第五号まで及び第七号の事項を証するに足りる書面

三 前項第八号の算出基礎を証するに足りる書面

3 国土交通大臣は、必要があると認めるときは、法第七十二条第一項第一号又は第二号の損害の填補の請求をした者に対し、国土交通大臣の指定する医師の診断書の提出を求めることができる。この場合において、必要な費用は、政府の負担とする。

(政府に対する補償の請求)

第二十八条 法第十六号第四項又は法第十七号第四項(これらの規定を法第二十三条の三第一項において準用する場合を含む。)の規定による政府に対する補償の請求は、次の事項を記載した書面をもつて行わなければならない。

一 請求する者の名称及び住所

二 加害者及び被害者の氏名及び住所並びに加害行為の行われた日時及び場所

三 法第十六号第四項又は法第十七号第四項(これらの規定を法第二十三条の三第一項において準用する場合を含む。)の規定により政府に対し補償の請求をすることができる理由

四 当該自動車の自動車登録番号若しくは車両番号、標識の番号又は道路交通に関する条約の規定による登録番号(これらが存しない場合にあつては、車台番号)

五 保険契約者又は共済契約者の氏名及び住所

六 請求する金額及びその算出基礎(診療報酬の請求に係る明細その他損害額の内容及び根拠を明示すること。)

2 前項の書面には、次の書類を添付しなければならない。

一 前項第二号及び第三号の事項を証するに足りる書面

二 前項第六号の算出基礎を証するに足りる書面

(自動車事故対策事業賦課金の納付等)

第二十九条 自動車事故対策事業賦課金の納付は、一月ごとに取りまとめて行なうものとする。

2 保険会社及び組合は、自動車事故対策事業賦課金の納付の事由が発生したときは、遅滞なく、その旨を国土交通大臣に届け出なければならない。

(督促状) 法第八十条第二項の督促状は、第三号様式による。

(財産差押をする職員の身分を示す証票)

第三十一条 法第八十条第四項の規定により処分を行う当該職員が国税滞納処分の例により携帯する証票は、第四号様式による。

(立入検査)

第三十一条の二 法第八十二条の二第二項において準用する法第二十三条の二第二項の証明書は、第五号様式による。

(保険会社又は組合の遵守すべき事項)

第三十一条の三 法第八十四条の二第四項の保険標準又は共済標準の適正な交付の確保に關し保険会社又は組合の遵守すべき事項は、次のとおりとする。

- 一 当該責任保険の契約又は責任共済の契約の保険期間又は共済期間の満了する日及び月と異なる年及び月を表示する保険標準又は共済標準を交付し、又は再交付しないこと。
- 二 当該責任保険の契約又は責任共済の契約の保険期間又は共済期間の始期が契約の締結の日の翌日以後に定められている場合には、当該始期前一月以内に保険標準又は共済標準を交付すること。

(自動車損害賠償責任保険証明書等の提示を求める職員の身分を示す証憑)

第三十二条 法第八十五条第二項の身分を示す証明書は、第六号様式による。

附則

この省令は、公布の日から施行する。

附則 (昭和三十一年一月二三日運輸省令第一号) 抄

1 この省令は、昭和三十一年二月一日から施行する。

附則 (昭和三十一年五月二二日運輸省令第二七号)

この省令は、公布の日から施行する。

附則 (昭和三十五年五月二五日運輸省令第一九号)

この省令は、昭和三十五年十月一日から施行する。

附則 (昭和三十七年七月一四日運輸省令第三九号)

第一条 この省令は、昭和三十七年十月一日から施行する。ただし、第五条の二を加える改正規定は、昭和三十七年八月一日から施行する。

附則 (昭和三十七年九月二九日運輸省令第五五号)

この省令は、昭和三十七年十月一日から施行する。

附則 (昭和三十八年一〇月一日運輸省令第五〇号)

この省令は、昭和三十八年十月十五日から施行する。

附則 (昭和三十九年二月一日運輸省令第二号)

1 この省令は、公布の日から施行する。

2 この省令の施行の際現に締結されている責任保険に係る保険金額及びこの省令の施行前に発生した自動車の運行による事故に係る自動車損害賠償保障事業が行なう損害のてん補の限度額については、改正前の第四条及び別表第一の規定は、なおその効力を有する。

3 この省令の施行の際現に締結されている責任保険の契約に係る第六条及び第八条の通知並びに第七条及び第九条の請求については、改正後の第九条の二及び別表の規定並びに第二号様式(その二)、第一号様式(一)(その二)、第二号様式(三)(その二)、第三号様式(その二)、第三号様式(一)(その二)、第四号様式(その二)、第五号様式(その二)、第五号様式(一)(その二)及び第五号様式(二)(その二)にかかわらず、なお従前の例による。

附則 (昭和三十九年九月五日運輸省令第六五号)

この省令は、昭和三十九年九月六日から施行する。

附則 (昭和四一年七月三〇日運輸省令第四六号) 抄

1 この省令は、公布の日から施行する。

2 改正後の第九条の二の規定、改正後の別表及び改正後の第二号様式から第五号様式の二までは、昭和四十一年七月一日以後に締結した責任保険の契約に係る第六条及び第八条の通知並びに第七条及び第九条の請求について適用し、同日前に締結した責任保険の契約に係る第六条及び第八条の通知並びに第七条及び第九条の請求については、なお従前の例による。

3 この省令の施行前に交付された自動車損害賠償責任保険証明書及び自動車損害賠償自家保障証明書は、それぞれ改正後の第一号様式による自動車損害賠償責任保険証明書及び改正後の第六号様式による自動車損害賠償自家保障証明書とみなす。

附則 (昭和四四年二月二六日運輸省令第五九号)

この省令は、昭和四十五年一月一日から施行する。

附則 (昭和四五年二月二〇日運輸省令第一〇号)

この省令は、昭和四十五年三月一日から施行する。

附則 (昭和四五年九月一八日運輸省令第八一号) 抄

1 この省令は、自動車損害賠償保障法の一部を改正する法律(昭和四十五年法律第四十六号)の施行の日(昭和四十五年十月一日)から施行する。

附則 (昭和四五年二月一七日運輸省令第九二号)

この省令は、昭和四十六年一月一日から施行する。

2 改正後の第二号様式から第九号様式までの総括表は、この省令の施行後に締結される責任保険又は責任共済の契約に係る自動車損害賠償保障法施行規則の規定による通知及び請求について適用し、この省令の施行前に締結された責任保険又は責任共済の契約に係るこれらの通知及び請求については、なお従前の例による。

附 則 (昭和四十七年五月十三日運輸省令第三二二号)
この省令は、昭和四十七年五月十五日から施行する。

附 則 (昭和四十七年九月二十九日運輸省令第五七号)
この省令は、昭和四十七年十月一日から施行する。

1 この省令は、昭和四十七年十月一日から施行する。
2 北海道に使用の本拠を有する営業用乗用自動車に関する自動車損害賠償責任保険の契約又は自動車損害賠償責任共済の契約であつて、昭和四十九年三月三十一日以前に保険期間又は共済期間を開始するものに係る車種の区分については、なお従前の例による。

附 則 (昭和四十八年九月二十八日運輸省令第三三三号) 抄

1 この省令は、道路運送車両法の一部を改正する法律(昭和四十七年法律第六十二号。以下「改正法」という。)の施行の日(昭和四十八年十月一日)から施行する。
8 第四条の規定による改正後の自動車損害賠償保障法施行規則別表(一)の表及び第二号様式から第九号様式までの総括表は、この省令の施行後に責任保険関係又は責任共済関係が成立する責任保険又は責任共済の契約に係る自動車損害賠償保障法施行規則の規定による通知及び請求について適用し、この省令の施行前に責任保険関係又は責任共済関係が成立した責任保険又は責任共済の契約に係るこれらの通知及び請求については、なお従前の例による。

9 改正法附則第二条第一項本文の規定により新法第五章の規定による検査を受けることを要しない検査対象軽自動車は、第四条の規定による改正後の自動車損害賠償保障法施行規則の適用については、検査対象外軽自動車とみなす。ただし、改正法附則第二条第一項に規定する政令で定める日以前に当該検査対象軽自動車の新法第五十九条第一項の規定による新規検査を受ける場合において、当該自動車の自動車検査証の有効期間の末日が当該自動車についての責任保険又は責任共済の契約の申込みの日から起算して二年二月を経過する日以前であるときは、この限りでない。

附 則 (昭和四十八年一〇月三〇日運輸省令第三七号)

1 この省令は、昭和四十八年十一月一日から施行する。
2 道路運送車両法の一部を改正する法律(昭和四十七年法律第六十二号)附則第二条第一項の規定により道路運送車両法(昭和二十六年法律第八十五号)第七十三条第一項の規定による車両番号標を表示しない検査対象軽自動車については、当該自動車を検査対象外軽自動車とみなしてこの省令による改正後の自動車損害賠償保障法施行規則第五条の二第一項(第七号に係る部分に限る。)及び別表(一)の規定を適用する。

附 則 (昭和四十八年一二月二七日運輸省令第四四号)

1 この省令は、昭和四十八年十二月一日から施行する。
2 改正後の別表(一)の表及び第二号様式から第九号様式までの総括表は、この省令の施行後に締結される責任保険又は責任共済の契約に係る自動車損害賠償保障法施行規則の規定による通知及び請求について適用し、この省令の施行前に締結された責任保険又は責任共済の契約に係るこれらの通知及び請求については、なお従前の例による。

3 改正後の第九号様式(その一)は、この省令の施行後に発生する自動車損害賠償責任共済の契約に係る仮渡金に対応する再保険金又は保険金の支払の請求(以下単に「請求」という。)について適用し、この省令の施行前に発生した自動車の運行による事故に係る請求については、なお従前の例による。

附 則 (昭和四十八年一二月二二日運輸省令第五八号)

1 この省令は、公布の日から施行する。
2 改正後の第一号様式の二は、昭和四十九年二月一日以後に保険期間又は共済期間が開始する責任保険又は責任共済の契約に係る保険標章又は共済標章について適用し、同日前に保険期間又は共済期間が開始する責任保険又は責任共済の契約に係る保険標章又は共済標章については、なお従前の例による。

附 則 (昭和四十九年一二月二六日運輸省令第五三三号)

1 この省令は、公布の日から施行する。ただし、第二条及び附則第三項の規定は、昭和五十年四月一日から施行する。
2 第一条の規定による改正後の別表(一)の表及び第二号様式から第九号様式までの総括表は、昭和四十九年十一月一日以後に締結される責任保険又は責任共済の契約に係る自動車損害賠償保障法施行規則の規定による通知及び請求について適用し、同日前に締結された責任保険又は責任共済の契約に係るこれらの通知及び請求については、なお従前の例による。

3 第二条の規定による改正後の別表(一)の表は、同条の規定の施行後に保険期間又は共済期間が開始する責任保険又は責任共済の契約に係る自動車損害賠償保障法施行規則の規定による通知及び請求について適用し、同条の規定の施行前に保険期間又は共済期間が開始する責任保険又は責任共済の契約に係るこれらの通知及び請求については、なお従前の例による。

附 則 (昭和五〇年六月二七日運輸省令第二二二号)

1 この省令は、昭和五十年七月一日から施行する。
2 改正後の第九号様式(その一)は、この省令の施行後に発生する自動車損害賠償責任共済の契約に係る仮渡金に対応する再保険金又は保険金の支払の請求(以下単に「請求」という。)について適用し、この省令の施行前に発生した自動車の運行による事故に係る請求については、なお従前の例による。

附 則 (昭和五〇年一〇月三〇日運輸省令第四四号)

1 この省令は、昭和五十年十一月一日から施行する。
2 改正後の別表(一)の表及び第二号様式から第九号様式までの総括表は、この省令の施行後に締結される責任保険又は責任共済の契約に係る自動車損害賠償保障法施行規則の規定による通知及び請求について適用し、この省令の施行前に締結された責任保険又は責任共済の契約に係るこれらの通知及び請求については、なお従前の例による。

附 則 (昭和五二年一月一九日運輸省令第一号)

1 この省令中、第一条及び次項の規定は昭和五十二年一月二十日から、第二条及び附則第三項の規定は昭和五十六年二月一日から施行する。

2 第一条の規定による改正後の別表(一)の表及び第二号様式から第九号様式までの総括表は、同条の規定の施行後に締結される責任保険又は責任共済の契約に係る自動車損害賠償保障法施行規則の規定による通知及び請求について適用し、同条の規定の施行前に締結された責任保険又は責任共済の契約に係るこれらの通知及び請求については、なお従前の例による。

3 第二条の規定による改正後の別表(二)の表及び第二号様式から第九号様式までの総括表は、同条の規定の施行後に保険期間又は共済期間が開始する責任保険又は責任共済の契約に係る自動車損害賠償保障法施行規則の規定による通知及び請求について適用し、同条の規定の施行前に保険期間又は共済期間が開始する責任保険又は責任共済の契約に係るこれらの通知及び請求については、なお従前の例による。

附 則 (昭和五三年六月二七日運輸省令第三六号)

1 この省令は、昭和五十三年七月一日から施行する。

2 この省令の施行前に発生した自動車の運行による事故に係る仮渡金に対応する再保険金又は保険金の支払の請求に係る明細書の様式については、なお従前の例による。

附 則 (昭和五八年三月一五日運輸省令第八号) 抄

(施行期日)

1 この省令は、道路運送車両法の一部を改正する法律(昭和五十七年法律第九十一号)の施行の日(昭和五十八年七月一日)から施行する。

附 則 (昭和五九年六月二二日運輸省令第一八号) 抄

(施行期日)

第一条 この省令は、昭和五十九年七月一日から施行する。

附 則 (昭和六〇年二月五日運輸省令第五号) 抄

(施行期日)

1 この省令は、道路運送法等の一部を改正する法律の施行の日(昭和六十年四月一日)から施行する。

附 則 (昭和六三年四月二一日運輸省令第二二号)

この省令は、昭和六十三年六月一日から施行する。

附 則 (平成元年七月二〇日運輸省令第二四号)

この省令は、公布の日から施行する。

附 則 (平成三年五月二四日運輸省令第一五号)

この省令は、平成三年七月一日から施行する。

附 則 (平成五年七月二九日運輸省令第二五号)

この省令は、平成五年八月一日より施行する。

1 この省令は、平成五年八月一日より施行する。

2 この省令の施行前にした改正前の自動車損害賠償保障法施行規則第七条の二第二項(同令第十九条第一項において準用する場合を含む。)の規定による通知は、改正後の自動車損害賠償保障法施行規則第九条の三第二項(同令第十九条第一項において準用する場合を含む。)の規定によりされたものとみなす。

附 則 (平成六年一月一日運輸省令第四八号) 抄

(施行期日)

1 この省令は、道路運送車両法の一部を改正する法律(平成六年法律第八十六号)の一部の施行の日(平成七年一月一日)から施行する。

附 則 (平成七年二月二七日運輸省令第七号)

この省令は、平成七年三月一日から施行する。

附 則 (平成八年九月一三日運輸省令第五〇号)

(施行期日)

1 この省令は、自動車損害賠償保障法の一部を改正する法律(以下「改正法」という。)の施行の日(平成八年十二月一日)から施行する。

(経過措置)

2 農業協同組合等が改正法の施行の日から起算して十年を経過する日以前に締結する責任共済、再共済又は再再共済の契約によって負う共済責任、再共済責任又は再再共済責任に係る自動車損害賠償責任共済事業については、この省令による改正前の自動車損害賠償保障法施行規則第十九条第一項の規定は、なおその効力を有する。

附 則 (平成八年一月二五日運輸省令第六一号)

(施行期日)

1 この省令は、平成八年十二月一日から施行する。

(経過措置)

2 この省令の施行の際現に責任保険の事業を行っている保険会社又は責任共済の事業を行っている農業協同組合等(以下「既実施保険会社等」という。)が平成十年三月三十一日以前に交付する自動車損害賠償責任保険証明書(以下「責任保険証明書」という。)又は自動車損害賠償責任共済証明書(以下「責任共済証明書」という。)については、なお従前の例によることができる。

3 この省令の施行前に交付された責任保険証明書及び責任共済証明書並びに前項の場合において従前の例により交付された責任保険証明書及び責任共済証明書は、改正後の第一号様式による責任

保険証明書及び責任共済証明書とみなす。

4 改正後の第二号様式(その一)から第九号様式(その二)までは、この省令の施行後に締結される責任保険又は責任共済の契約に係る自動車損害賠償保障法施行規則の規定による通知及び請求について適用し、この省令の施行前に締結された責任保険又は責任共済の契約に係るこれらの通知及び請求については、なお従前の例による。ただし、既実施保険会社等がこの省令の施行後平成九年三月三十一日以前に締結する責任保険又は責任共済の契約に係るこれらの通知及び請求については、なお従前の例によることができる。

附則(平成二十二年二月二十九日運輸省令第三九号)抄

(施行期日)

第一条 この省令は、平成十三年一月六日から施行する。

附則(平成二十三年二月二二日国土交通省令第一四九号)

この省令は、平成十四年四月一日から施行する。ただし、第一条中附則第二項及び第三項を加える改正規定は、平成十四年二月一日から施行する。

附則(平成二十四年六月二十八日国土交通省令第七九号)

(施行期日)

第一条 この省令は、平成十四年七月一日から施行する。

(経過措置)

第二条 この省令の施行の際現にあるこの省令による改正前の様式又は書式による申請書、証明書その他の文書は、この省令による改正後のそれぞれの様式又は書式にかかわらず、当分の間、なおこれを使用することができる。

附則(平成二十六年八月一七日国土交通省令第八三三号)抄

(施行期日)

第一条 この省令は、道路運送車両法の一部を改正する法律附則第一条本文の規定の施行の日(平成十七年一月一日)から施行する。

附則(平成二十七年五月二〇日国土交通省令第五七五号)抄

(施行期日)

第一条 この省令は、自動車関係手続における電子情報処理組織の活用のための道路運送車両法等の一部を改正する法律(次条において「改正法」という。)附則第一条ただし書に規定する規定の施行の日(平成十七年五月二十五日)から施行する。

附則(平成二十七年二月二二日国土交通省令第一〇四号)抄

(施行期日)

第一条 この省令は、平成十七年十二月二十六日から施行する。

附則(平成二十九年三月三〇日国土交通省令第二四号)

この省令は、平成十九年四月一日から施行する。

附則(平成三〇年九月一日国土交通省令第七六号)抄

(施行期日)

第一条 この省令は、道路運送法等の一部を改正する法律(以下「改正法」という。)附則第一条第四号に掲げる規定の施行の日(平成二十年十一月四日)から施行する。

附則(平成三十二年三月二十九日国土交通省令第六号)

(施行期日)

1 この省令は、保険法の施行の日(平成二十二年四月一日)から施行する。

(経過措置)

2 この省令の施行前に締結された責任保険又は責任共済の契約の解除の要件については、なお従前の例による。

3 自動車の運行による事故がこの省令の施行前に発生した場合における自動車損害賠償保障法第七十二条第一項の規定による損害のてん補については、なお従前の例による。

附則(平成三十二年二月二十八日国土交通省令第六三三号)

(施行期日)

第一条 この省令のうち、第一条の五第三項の改正規定は公布の日から、第一号様式の二の改正規定は平成二十三年四月一日から施行する。

(経過措置)

第二条 この省令の施行の際現にあるこの省令による改正前の自動車損害賠償保障法施行規則第一号様式の二による保険標章は、この省令による改正後の様式にかかわらず、当分の間、なおこれを使用することができる。

附則(平成二十六年二月二八日国土交通省令第八九号)

この省令は、平成二十七年四月一日から施行する。

附則(平成二十八年三月一日国土交通省令第一四号)抄

(施行期日)

第一条 この省令は、平成二十八年四月一日から施行する。

附則(平成二十八年二月二十八日国土交通省令第八七号)抄

(施行期日)

第一条 この省令は、平成二十九年一月一日から施行する。ただし、第一条（第一号様式備考（6）の改正規定を除く。）、第二条、第三条及び第四条（第十三条第一項第二号の改正規定及び別表第二の改正規定を除く。）の規定は、平成二十九年四月一日から施行する。

附 則（令和元年六月二十八日国土交通省令第二〇号）

この省令は、不正競争防止法等の一部を改正する法律の施行の日（令和元年七月一日）から施行する。

附 則（令和元年九月一〇日国土交通省令第三二号）

抄

(施行期日)

1 この省令は、地方税法等の一部を改正する等の法律附則第一条第五号の四に掲げる規定の施行の日（令和元年十月一日）から施行する。

附 則（令和三年八月三一日国土交通省令第五三号）

(施行期日)

1 この省令は、令和三年九月一日から施行する。

(経過措置)

2 この省令の施行の際現にあるこの省令による改正前の様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

附 則（令和五年三月三一日国土交通省令第一六号）

この省令は、令和五年四月一日から施行する。

第一号様式(第一条関係)

証明書番号 第 号		年 月 日	
自動車損害賠償責任保険証明書			
下記の自動車については、自動車損害賠償保障法による自動車損害賠償責任保険契約が締結されていることを証明します。			
保険会社名			
自動車登録番号、車両番号又は標識の番号(車台番号)		自動車の種別	
保険期間	自 年 月 日 間 至 年 月 日 午前12時	使用の本拠の所在地	
保険契約者の住所及び氏名		保険料	
異動事項		指定金融機関名	
		保険料収納年月日	
管轄店名及び所在地		扱者	

(日本産業規格A列5番)

備考

- (1) 「自動車登録番号、車両番号又は標識の番号(車台番号)」欄には、自動車登録番号若しくは車両番号、標識の番号又は道路交通に関する条約の規定による登録番号を記載すること。これらが存しない場合には、車台番号(臨時運行許可番号標、回送運行許可番号標又は臨時運転番号標を表示して運行の用に供する自動車にあつては、当該臨時運行許可番号標、回送運行許可番号標若しくは臨時運転番号標の番号又は車台番号)を記載すること。
 - (2) 「自動車の種別」は、国土交通大臣の定めるところによる。
 - (3) 「使用の本拠の所在地」欄には、使用の本拠の存する都府県及び北海道にあつては、使用の本拠を管轄する運輸支局の存する市を表示すること(離島にあつては、使用の本拠の所在地の後に「(離島)」と記載すること。)
 - (4) 「指定金融機関名」欄には、指定金融機関(保険会社が保険料の収納を委任した金融機関をいう。以下同じ。)が保険料を収納する場合に限り、当該金融機関名を記載すること。
 - (5) 「保険料収納年月日」欄には、保険会社、代理店又は指定金融機関が保険料を収納した年月日を記載すること。
 - (6) 代理店扱いの契約にあつては、「扱者」欄に当該代理店の商号、名称又は氏名を記載すること。
 - (7) 自動車損害賠償責任共済証明書は、この様式中「自動車損害賠償責任保険証明書」の文字に代えて「自動車損害賠償責任共済証明書」の文字を、「自動車損害賠償責任保険契約」の文字に代えて「自動車損害賠償責任共済契約」の文字を、「保険会社名」の文字に代えて「組合名」の文字を、「保険期間」の文字に代えて「共済期間」の文字を、「保険契約者」の文字に代えて「共済契約者」の文字を、「保険料」の文字に代えて「共済掛金」の文字を、「保険料収納年月日」の文字に代えて「共済掛金収納年月日」の文字を、「管轄店名」の文字に代えて「組合名又は組合の支部等の名称」の文字を表示するほか、(1)～(5)に準ずること。
-

第二号様式(第六条関係)

(表)		(裏)
← 9センチメートル →	第 号	<p style="text-align: center;">自動車損害賠償保障法抜粋</p> <p>第23条の2 国土交通大臣は、第11条から前条までの規定の施行に必要な限度において、国土交通省令で定めるところにより、保険会社に対し、責任保険の業務に関し報告をさせ、又はその職員に、保険会社の営業所、事務所その他の施設に立ち入り、責任保険の業務の状況若しくは帳簿、書類その他の物件を検査させ、若しくは関係者に質問させることができる。</p> <p>2 前項の規定により立入検査又は質問をする職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係者の請求があつたときは、これを提示しなければならない。</p> <p>3 第1項に規定する立入検査又は質問の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解釈してはならない。</p> <p>第88条 次の各号のいずれかに該当する場合には、その違反行為をした者は、30万円以下の罰金に処する。</p> <p>(1) 略</p> <p>(2) 第23条の2第1項(第23条の3第1項において準用する場合を含む。)又は第82条の2第1項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又はこれらの規定による検査を拒み、妨げ、若しくは忌避し、若しくはこれらの規定による質問に対して答弁せず、若しくは虚偽の答弁をしたとき。</p> <p>(3)・(4) 略</p>
↑ 6.5センチメートル ↓	官職	
	氏名	
	自動車損害賠償保障法第23条の2第2項の規定による	
	検 査 員 証	
	年 月 日 発 行	
	年 月 日 限 有 効	
	国土交通大臣 印	
↑ 6.5センチメートル ↓		

第三号様式(第三十条関係)

第 号		督 促 状	
年度	国土交通省所管 自動車安全特別会計		
自動車事故対策事業賦課金 過 怠 金			円
指定期限	年 月 日		
納付場所	日本銀行又はその代理店 若しくは歳入代理店		
上記のとおり納付して下さい。			
指定期限までに完納しないときは、自動車損害賠償保障法第八十条第四項の規定により、直ちに財産差押えの処分をします。			
年 月 日			
歳入徴収官の官職氏名 印			

九センチメートル

一四センチメートル

第四号様式(第三十一条関係)

第	号		↑ 六センチメートル ↓
		官職 _____	
		氏名 _____	
		自動車損害賠償保障法による徴収金滞納者の財産差押えをする 職員の証	
		年 月 日 発 行 _____	
		年 月 日 まで有効 _____	
		国土交通大臣 印	
		自動車損害賠償保障法抜粋 第八十条第四項 国土交通大臣は、第一項の規定に よる督促を受けた者が、同項の期限までに自動車 事故対策事業賦課金又は過怠金を納付しないとき は、国税滞納処分等の例によつて、これを処分する。	↑ 六センチメートル ↓
		← 八・五センチメートル →	

第五号様式(第三十一条の二関係)

(表)

(裏)

	<p>← 9センチメートル →</p> <p style="text-align: center;">第 号</p> <p style="text-align: center;">官職</p> <p style="text-align: center;">氏名</p> <p>自動車損害賠償保障法第82条の2第2項の規定による</p> <p style="text-align: center;">検 査 員 証</p> <p style="text-align: center;">年 月 日 発 行</p> <p style="text-align: center;">年 月 日 限 有 効</p> <p>国土交通大臣 印</p>	<p>自動車損害賠償保障法抜粋</p> <p>第23条の2 国土交通大臣は、第11条から前条までの規定の施行に必要な限度において、国土交通省令で定めるところにより、保険会社に対し、責任保険の業務に関し報告をさせ、又はその職員に、保険会社の営業所、事務所その他の施設に立ち入り、責任保険の業務の状況若しくは帳簿、書類その他の物件を検査させ、若しくは関係者に質問させることができる。</p> <p>2 前項の規定により立入検査又は質問をする職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係者の請求があつたときは、これを提示しなければならない。</p> <p>3 第1項に規定する立入検査又は質問の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解釈してはならない。</p> <p>第78条 保険会社、組合及び第10条に規定する自動車のうち政令で定めるものを運行の用に供する者は、第71条に規定する自動車事故対策事業に必要な費用に充てるため、国土交通省令で定めるところにより、政令で定める金額を、自動車事故対策事業賦課金として政府に納付しなければならない。</p> <p>第82条の2 国土交通大臣は、第78条の規定の施行に必要な限度において、国土交通省令で定めるところにより、保険会社若しくは組合に対し、その業務若しくは経理の状況に関し報告をさせ、又はその職員に、保険会社若しくは組合の営業所、事務所その他の施設に立ち入り、その業務の状況若しくは帳簿、書類その他の物件を検査させ、若しくは関係者に質問させることができる。</p> <p>2 第23条の2第2項及び第3項の規定は、前項の規定による立入検査又は質問について準用する。</p> <p>第88条 次の各号のいずれかに該当する場合には、その違反行為をした者は、30万円以下の罰金に処する。</p> <p>(1) 略</p> <p>(2) 第23条の2第1項(第23条の3第1項において準用する場合を含む。)又は第82条の2第1項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又はこれらの規定による検査を拒み、妨げ、若しくは忌避し、若しくはこれらの規定による質問に対して答弁せず、若しくは虚偽の答弁をしたとき。</p> <p>(3)・(4) 略</p>
6.5センチメートル		
6.5センチメートル		
6.5センチメートル		

第六号様式(第三十二条関係)

(表)

第 号					
	官職				
	氏名				
自動車損害賠償責任保険証明書又は自動車損害賠償責任共済証明書の提示を求める職員の時					
		年 月 日 発 行			
		年 月 日 まで有効			
国土交通大臣 印					

六センチメートル

六センチメートル

八・五センチメートル

(裏)

自動車損害賠償保障法

抜粋

第八十五条 国土交通大臣は、第一条の目的を達成するため必要があると認めるときは、その職員に、道路その他自動車の所在する場所において、自動車を運転する者に対し、自動車損害賠償責任保険証明書又は自動車損害賠償責任共済証明書の提示を求めさせることができる。

2 前項の職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係者の請求があつたときは、これを提示しなければならない。

第八十九条 次の各号のいずれかに該当する場合には、その違反行為をした者は、二十万円以下の罰金に処する。

三 第八十五条第一項の規定による提示を拒み、又は妨げたとき。

第九十条 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人又は人の業務又は財産に関して、第八十六条の三第一項又は第八十七条から前条までの違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対しても、各本条の罰金を科する。